



冬季における飼養管理について

人間・牛ともに寒さを感じる季節となりました。
そこで、冬季に注意すべき飼養管理ポイントについてお伝えします。

□成牛

①換気対策

防寒のため牛舎の窓や扉を締め切る機会が多くなります。その結果、牛舎内は新鮮な空気が流れず呼吸器病や湿気による乳房炎のリスクも上がるだけでなく、乾物摂取量が低下してしまいます。冬期間でも一定量の換気を行いましょう。

- (対策)
- ・天気の良い日中はなるべく牛舎の窓や扉を開ける。
 - ・換気扇の台数を制限し、ゆっくり稼働させる。

②飼料の増給

寒冷環境下では体温維持のため、血管が収縮し熱の産出や代謝活動が促進され、乾物とエネルギーの要求量が増えます。消費されるエネルギー源の補給と消化率低下による栄養摂取量の低下を回避するため、養分給与量を増やしましょう。

- (対策)
- ・嗜好性や品質の良い粗飼料を給与する。
(※TMRの場合、頭数に対して5%ほど給与量を増やす)
 - ・餌寄せの回数を増やす。
 - ・濃厚飼料の給与比率を高めるか検討する。
(※給与量を増やしDMIが向上しても尚エネルギー不足の症状(卵巣のう腫など)が出ている場合)

「宗谷農業改良普及センター」で検索またはQRコードから



□子牛

①保温対策

子牛は成牛と比較して、皮下脂肪やルーメンの発達が未熟なため、体温を維持することが難しいです。寒さを乗り越えるために、子牛の保温対策に努めましょう。

- (対策)
- ・底冷えを防ぐために、敷き藁を夏場より多く敷く。
 - ・カーフジャケットやネックウォーマーの着用。
 - ・ゆたんぼや赤外線ヒーターなど暖房器の設置。
 - ・子牛が糞尿で濡れないように、すのこやお風呂マットを敷く※。
- (※尿が溜まりアンモニアが発生する場合もあるため、こまめな掃除を心がけましょう)

②飼料の増給

ほ乳子牛では常温環境下で飼育されている場合より、寒冷環境下で飼育されている場合の方が体温維持のためのエネルギー要求量が32%増えるとされています。代用乳の濃度は変えず徐々に増給し、夏場より2L程度多く給与するようにしましょう(例:夏季4L⇒冬季6L等)。